
環境経営レポート

2019年版



作成日付：

2020年5月30日



信濃化学工業株式会社

〒381-0045

長野県長野市桐原 1-2-12

TEL:026(243)1115 FAX:026(243)1520

URL:<https://www.shinano-kagaku.co.jp>

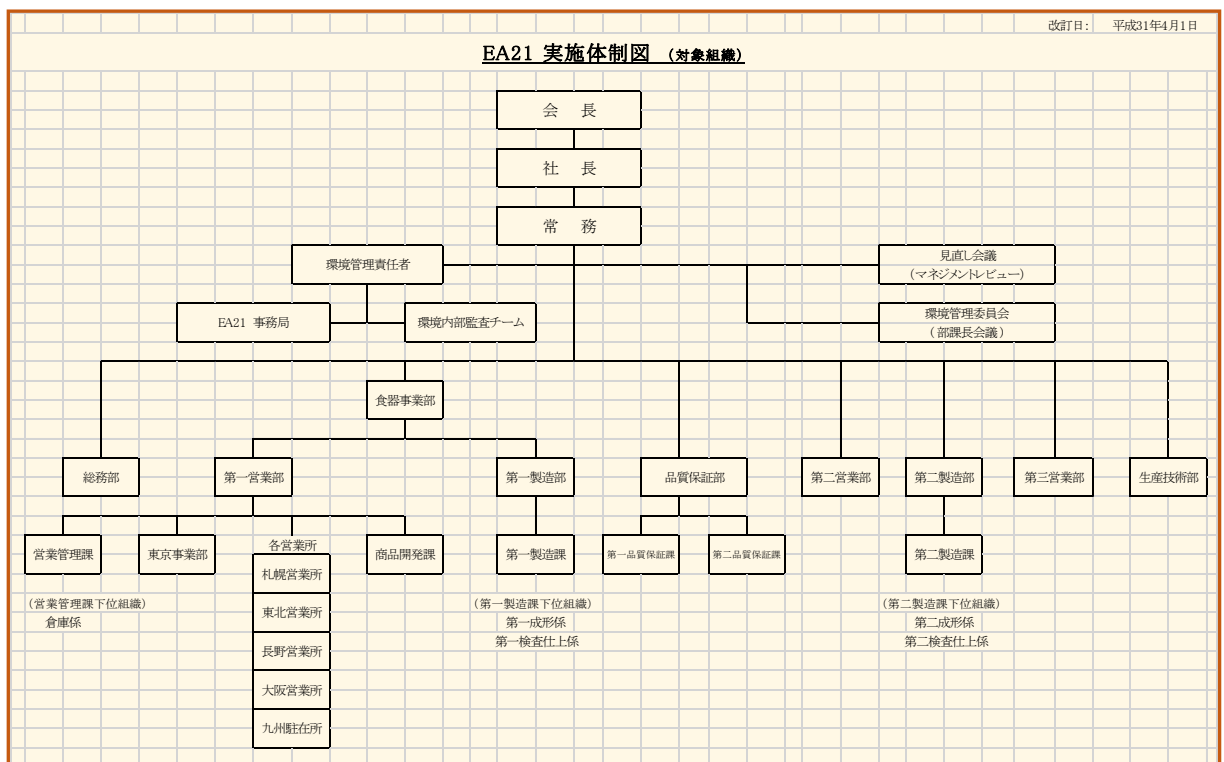
① 組織の概要

名称	信濃化学工業株式会社	
代表者名	代表取締役 小野 大輔	
所在地	本社及び本社工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 第二工場 : 長野県長野市桐原 2-4-1 第三工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 札幌営業所 : (未公開) 東北営業所 : (未公開) 長野営業所 : 長野県長野市桐原 1-2-12 東京営業所 : 東京都豊島区千早 2-27-15の106 大阪営業所 : 大阪府豊中市服部西町 3-8-5の102	
環境管理責任者	宮原 秀夫	
担当者連絡先	EA21事務局：宮原 秀夫 TEL：026(243)1115	
事業の概要	プラスチック製品の製造・販売 ・業務用プラスチック製食器の製造販売 ・環境関連商品の製造販売 ・工業部品の受注及び生産	
事業の規模	資本金	4,800万円
	設立	1948年4月
	従業員数	105名
エコアクション取り組み事業年度	4月～3月	

② 対象範囲

登録事業者名 信濃化学工業株式会社

対象事業所 本社及び本社工場・第三工場 (建物床延べ面積 : 3,842.26㎡)
 第二工場 (建物床延べ面積 : 3,727.56㎡)
 札幌営業所
 東北営業所
 長野営業所
 東京営業所
 大阪営業所



実施体制図(対象組織:全組織)

事業の概要 プラスチック製品の製造・販売

業務用プラスチック製食器の製造販売

環境関連商品の製造販売

工業部品の受注及び生産

レポートの対象期間 2019年4月～2020年3月

レポートの発行日 2020年 5月 30日

③ 環境方針

環 境 方 針

信濃化学工業株式会社は、自社ブランド商品としての食器関連商品、並びに森林事業分野を主体とした環境関連商品のそれぞれの企画・開発から製造、及び販売をして参ります。また、工業部品の受注並びに生産をして参ります。

当社のこれらの事業活動が、社会環境や自然環境と密接に関わり合っていることを認識すると共に、「プラスチックのスペシャリスト」として、あらゆるプラスチックに挑戦し技術向上を図りながら、環境の保全に取り組んで参ります。

そして、事業活動のすべての領域で自然環境との調和と地域社会との共生を目指し、以下の行動指針のもとに事業活動を行って参ります。

また、2015年9月の国連サミットに於いて決められた『SDGs(持続可能な開発目標)』にも積極的に関わりを持ち、プラスチック・スマートを代表とする特に自然環境へ配慮した取り組みを、事業活動と一体となって推進して参ります。

1. 技術的に可能な範囲で環境に配慮した商品並びに再利用、再資源化に配慮した商品を開発し、提供します。
2. 当社に係る環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 環境に配慮した生産資材の調達、並びに資源及びエネルギーの有効利用した、生産活動に努めます。
4. 再利用、再資源化を通じ、廃棄物排出量の削減に努めます。
5. 化学物質使用量の削減に努めると共に、その管理を適切に行います。
6. 定期的に環境経営システムの見直しを行うと共に、環境経営システムの継続的改善を図ります。
7. 環境方針を全社員に周知すると共に、一般にも公開します。

2019年5月1日

信濃化学工業株式会社

代表取締役 小 野 大 輔

④ 環境目標

環境目標(3ヵ年)一覧表

環境目的	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減（数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す）		
	・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 3,800kg-CO2	・第一製造 11,800kg-CO2 ・第二製造 3,600kg-CO2	・第一製造 11,500kg-CO2 ・第二製造 3,500kg-CO2
	② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ※適切な労働環境を実現し、無駄を排除する		
	・生産100万円当りの電力消費量 2,500kwh以内	2,450kwh以内	2,400kwh以内
廃棄物排出量の監視と抑制	③ 社用車における燃料費の抑制 ※エコドライブ推進と営業活動の効率化		
	・100km走行当りの燃料消費量 6L以内(燃費16.6km/L相当)	5.75L以内(燃費17.4km/L相当)	5.5L以内(燃費18.2km/L相当)
	① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減（数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す）		
	・第一製造 5,100kg ・第二製造 3,200kg	・第一製造 5,000kg ・第二製造 3,100kg	・第一製造 4,900kg ・第二製造 3,000kg
水使用量の監視	② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進		
	・売上100万円当りの廃棄物排出量 27.0kg以内	25.5kg以内	24.0kg以内
	① 定期的確認により監視、測定を行う ・配管、工場設備の漏水等異常の監視		
グリーン購入の推進と実施	① 購入品のグリーン購入の推進 ・環境配慮製品への代替の検討・実現		
化学物質使用量の管理	① 管理された状態の維持継続 ・当社で使用する化学物質について、その種類、使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理する		
環境配慮に関わる取り組み	① 環境に配慮した新製品開発 ・環境に配慮した新製品開発(生分解性樹脂を採用)		
	年間1件以上	年間1件以上	年間1件以上
	② 環境負荷低減策の検討～実施 ・当社の事業活動に関連して、「環境負荷の低減策」を講じる		
	負荷低減策の実現1件	負荷低減策の実現1件	負荷低減策の実現1件

⑤ 環境活動計画

2019年度 環境活動計画 ～ 目標を達成するための取組み ～

環境目的	環境目標	取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減 ・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 3,800kg-CO2 ② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ・生産100万円当りの電力消費量 2,500kwh以内 ③ 社用車における燃料費の抑制 ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 6L以内(燃費16.6km/L相当)	【第一製造／第二製造 共通事項】 ・生産不良に関わる「不良率」の削減策の実施 (生産不良に関わる「使用電力量」の削減 生産不良の削減(不良対策)、教育訓練) ・業務改善提案の実施 ・生産に適した効率の良い生産設備の実現 ・エコドライブの推進と実施 (アイドリングストップ・急加速の防止) ・効率の良い営業活動の実施
廃棄物排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減 ・第一製造 5,100kg ・第二製造 3,200kg ② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 27.0kg以内	【第一製造／第二製造 共通事項】 ・生産不良に関わる「材料消費量」削減策の実施 (生産不良の削減(不良対策)、教育訓練) ・分別の徹底による資源ゴミのリサイクル化 ・「歩留率」の向上策の実施 ・書類のデータ化の実施 等
水使用量の監視	① 定期的確認により監視、測定を行う	・水使用量の把握と配管設備の漏水監視の実施
グリーン購入の推進と実施	① 購入品のグリーン購入の推進	・環境配慮製品への代替検討の実施 代替可能なモノは切替えを実施
化学物質使用量の管理	① 管理された状態の維持・継続	・当社で使用する化学物質について、その種類、 使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管 場所等を経時的に把握し、記録・管理する
環境配慮に関わる取組み	① 環境に配慮した新製品開発 ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上 ② 環境負荷低減策の検討～実施 ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 年間1件	・環境に配慮した製品開発の実施 ・環境負荷の大きい課題抽出・選定と対策の実施 ・会社周辺の環境整備の実施

⑥ 環境目標の実績 (1)

2019年度 環境活動実績及び活動状況

環境目標	実績及び活動状況	評価
二酸化炭素の排出量の監視と抑制 ① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減 ・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 3,800kg-CO2 ② 業務改善による時間外労働時間の抑制 ・生産100万円当りの電力消費量 2,500kwh以内 ③ 社用車における燃料費の抑制 ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 6L以内(燃費16.6km/L相当)	・年間での実績値 ・第一製造 実績 ※ 14,194kg-CO2 ・第二製造 実績 ※ 5,415kg-CO2 ・業務改善活動 ※ 年間改善提案件数 15件 ※ 生産100万円当り 2,709kwh ・エコドライブの推進と営業活動の効率化 ※燃費実績 15.98km/L	× × ○ × △
廃棄物の排出量の監視と抑制 ① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減 ・第一製造 5,100kg ・第二製造 3,200kg ② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進 ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 27.0kg以内	・年間計画と実績 ・第一製造 実績 ※ 5,344kg ・第二製造 実績 ※ 4,061kg ・業務改善による廃棄物の抑制 ※年間改善提案件数 15件 ※売上100万円当り 27.4kg	× × ○ △
水使用量の監視 ① 定期的確認により監視、測定を行う	・工場内、設備配管とそれ以外の敷地内とに分けて、 総務部が監視しました。 ※ 結果、漏水は認められない	○
グリーン購入の推進と実施 ① 購入品のグリーン購入の推進	・グリーン購入への適合する代替え検討を行いました。 (費用面を考慮し、実現を目指しました) ※1件の代替えを実現しました	○
化学物質使用量の管理 ① 管理された状態の維持・継続	※化学物質使用部門(第一製造課)が定められた方法 により、管理された状態が維持されています。	○
環境配慮に関わる取り組み ① 環境に配慮した新製品開発 ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上 ② 環境負荷低減策の検討～実施 ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 年間0件	・新たに2製品が用途開発され、実証実験を開始しました。 ・他事業者との協力により、廃棄物のリサイクル化を検討 しましたが、実現には至りませんでした。 ・会社の全組織にて、会社周辺環境整備を行いました。	○ △ ○

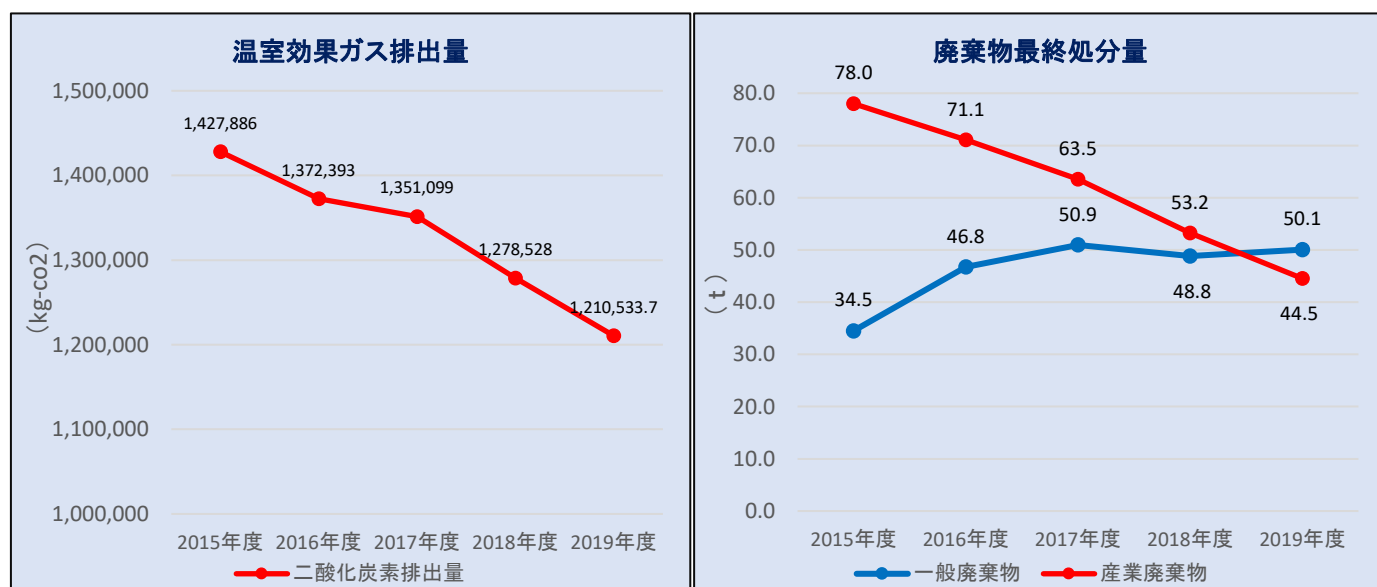
⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(実量)

環境への負荷項目			単位	実 績				
				2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
温室効果ガス排出量	二酸化炭素排出量		kg-CO2	1,427,886	1,372,393	1,351,099	1,278,528	1,210,533.7
			(前年対比%)	—	96.1	98.4	94.6	94.7
廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	リサイクル	t	2.1	2.5	2.1	2.0	2.0
		廃棄処分	t	34.5	46.8	50.9	48.8	50.1
		最終処分量	t	34.5	46.8	50.9	48.8	50.1
	産業廃棄物	リサイクル	t	78.0	71.1	63.5	53.2	44.5
		廃棄処分	t	16.9	14.6	16.3	17.1	15.2
		最終処分量	t	16.9	14.6	16.3	17.1	15.2
総排水量	下水道		m ³	1,562	1,470	1,537	1,478	1,584.0
水使用量	上水		m ³	1,701	1,595	1,627	1,612	1,756.0
化学物質使用量	ホルマリン		kg	2,185	2,200	2,385	2,315	2,520.0
	水酸化カリウム		kg	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	メタノール		kg	—	—	—	2,315.0	2,520.0
エネルギー使用量	購入電力		kWh	2,226,152	2,148,302	2,201,824	2,117,450	2,034,424.0
	化石燃料		MJ	4,310,998	4,128,561	3,339,305	3,192,379	2,785,605
物質使用量	資源使用量		t	928.4	851.6	873.6	842.5	740.4
	循環資源使用量		t	211.3	172.6	162.6	172.9	151.5
サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質等		t	211.3	172.6	162.6	172.9	151.5
総製品生産量	製品生産量		t	816.5	722.5	758.9	832.3	731.0
			(前年対比)	—	88.5	105.0	109.7	87.8
	環境負荷低減に資する製品等		t	111.8	118.8	114.7	112.3	104.4
	容器包装使用量		t	51.7	37.2	46.5	—	—

2018年度の電気事業者ごとの調整後排出係数 (株)テブコカスタマーサービス 0.508kg-CO2

環境目標の実績状況の推移

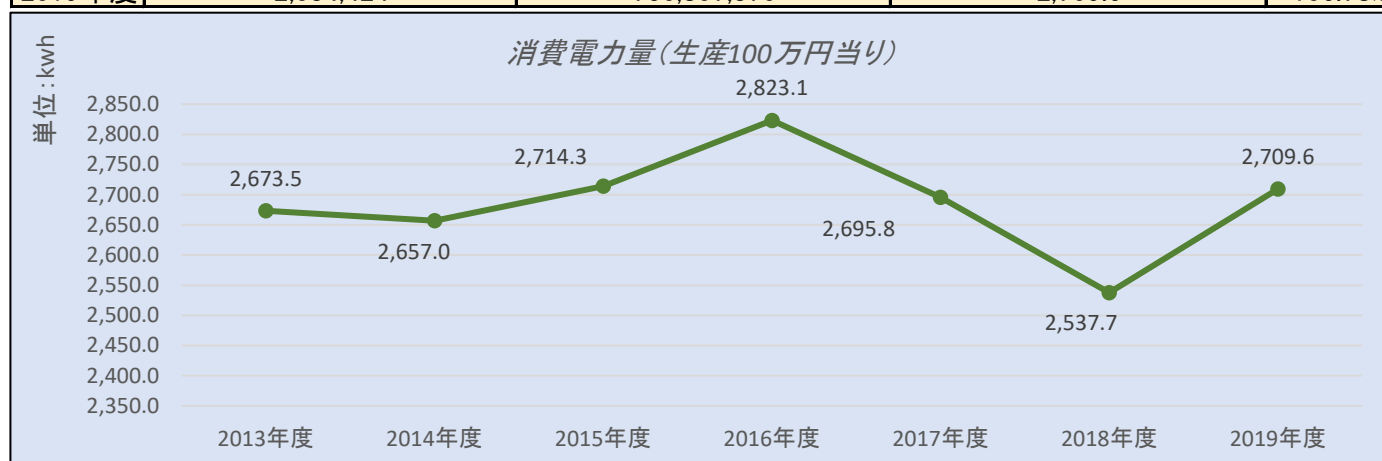


⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(一部、原単位による評価)

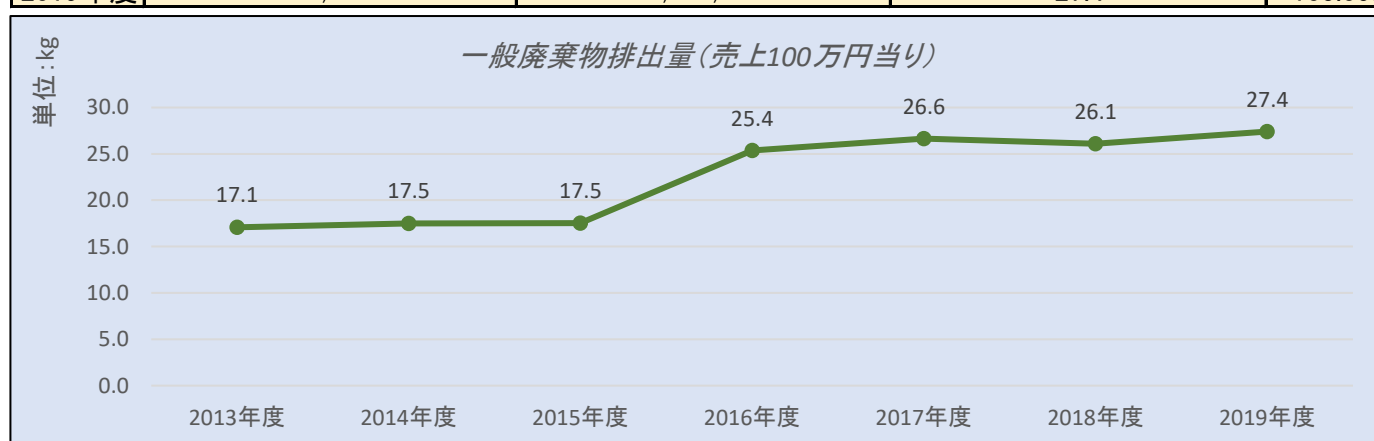
【温室効果ガス排出量に関わる傾向(消費電力)】

	(kwh)	(円)	(kwh)	
	電力消費量	社内生産実績	生産100万円当りの電力消費量	前年比
2013年度	2,197,143	821,813,232	2,673.5	—
2014年度	2,247,550	845,899,150	2,657.0	99.38%
2015年度	2,226,152	820,168,631	2,714.3	102.16%
2016年度	2,148,302	760,964,207	2,823.1	104.01%
2017年度	2,201,824	816,774,903	2,695.8	95.49%
2018年度	2,117,450	834,396,303	2,537.7	94.14%
2019年度	2,034,424	750,807,370	2,709.6	106.78%



【廃棄物排出量に関わる傾向(一般廃棄物)】

	(kg)	(千円)	(kg)	
年度	一般廃棄物 (最終処分量)	年間売上高 実績	売上100万円当りの廃棄物排出量	前年比
2013年度	38,980	2,282,607	17.1	—
2014年度	35,393	2,022,107	17.5	102.50%
2015年度	34,410	1,961,641	17.5	100.22%
2016年度	46,080	1,817,274	25.4	144.55%
2017年度	50,880	1,910,180	26.6	105.05%
2018年度	48,830	1,872,268	26.1	97.91%
2019年度	50,070	1,826,802	27.4	105.09%



(補足事項) 一般廃棄物の排出量の推移によると、2016年度より排出量が増加している。弊社内に於いては考えられる増加要因はなく、外部要因としては処分の委託先が変更となっている。2016年以前の委託業者は廃業しており、測量が不正確であった可能性が否定できないため、2016年以前のデータは参考値として認識するものとする。

⑦ 環境活動計画の取組結果とその評価

2019年度 環境活動取組結果とその評価及び次年度の取り組み計画

環境目標	取組み結果と評価	課題	次年度の取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程に於いては、不良低減を図る。 不良発生に伴う再生産に関わるエネルギー消費の削減を図る。 ※結果として、第一製造・第二製造は共に「目標を未達成」。 全部門にて業務改善を実施して、時間外労働の適正化に努めた。 車輛の運転者に注意喚起を図り、効率の良い営業活動が行えた。 その他の社員に対しても「環境教育」にてエコドライブの意識の高揚を行えた。 ※結果として、適切な状態を保つことが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> 人員のスキルUP 生産体制再構築（工場改革を含む） 効果の上がる業務改善策 営業活動の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組む。 生産の機械化・省力化を促進。 業務改善は、永遠のテーマ。引き続き、継続取り組みとする。 「効率の良い営業活動」を推進する。
廃棄物排出量の監視と抑制	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程に於いては、不良低減を図る。 生産不良に関わる材料消費量の削減から廃棄物排出量の抑制を図る。 ※結果として、第一製造・第二製造は共に「目標を未達成」。 廃棄物の分別と、廃棄物を出さない事業活動の推進を目指し、全社で活動をしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記※と同様 根本的な廃棄物排出量の抑制策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組む。 一般廃棄物が近年、増加傾向。2020年度は、各部門に目標値を設定し、具体的取り組みを促す。全社でのチャレンジとする。
水使用量の監視	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、総務部が監視・測定。 ※結果として、漏水は認められない 	なし	引き続き、管理された状態を維持管理する。
グリーン購入の推進と実施	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象品の検討を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入費用が増大する 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象品目 再検証。 当社事業の一部をグリーン購入法の適用を提案して行く。
化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"> 第一製造課が定められた方法により管理された状態を維持している。 	なし	引き続き、管理された状態を維持する
製品への環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> 大切な地球環境の維持活動として、全社で環境保全活動を推進しました。 ※事業活動にて、生分解性樹脂製商品を生産・販売しています。 ※事業活動から生じる「環境負荷」の低減策を、他企業との連携を模索した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場ニーズ 世界的ニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 新製品開発、用途開発に限らず推進する。 他の事業への展開を検討・実施する。 引き続き、連携先を模索する。連携図れれば、実行へ。

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令基準及び関連手順 等		届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境	フロン排出抑制法	自主及び専門知識を有する者による点検	設備の簡易／定期点検	点検記録簿	適法
			充填量、回収量の記録	記録類の保管	
			漏えい量の算出・報告	経済産業省への報告	
			設備廃棄時の回収証明	記録類の保管	
騒音	騒音規制法	環境基本法 長野市公害防止条例施行規則 労働安全衛生法	定点騒音測定 (昼間65デシベル、夜間55デシベル以下) 自主規制	騒音発生施設の配置の改善、その他の技術的事項	適法
環境破壊防止	化管法 (PRTR法)	—	ホルムアルデヒド	使用量の把握、確認	適用済み
	毒物及び劇物取締法	—	ホルマリン 水酸化カリウム	取扱等に関わる管理全般	
作業環境	労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物	ホルムアルデヒド メタノール 水酸化カリウム	名称の表示	適法
		作業環境測定/評価基準 特定化学物質等障害予防規則 有機溶剤中毒予防規則	ホルムアルデヒド メタノール	作業環境測定の結果評価に基づいて、労働者健康を保持する	
廃棄物リサイクル	環境基本法	循環型社会形成推進基本法 自動車リサイクル法 容器包装リサイクル法	使用済み車輛/容器包装 等	リサイクルの推進	適法
	廃掃法	産業廃棄物保管基準 産業廃棄物委託基準	産業廃棄物管理票状況等報告書	委託契約書 産業廃棄物管理票の管理	
危険物	消防法10条他	危険物保管の指定数量以上の許可申請	引火性液体第二石油類	危険物の管理	適法
		危険物施設に関する届出、指定可燃物の指定数量の5倍以上の届出	指定可燃物(合成樹脂類)	危険物の貯蔵量の明確化	
		貯蔵所に於ける「ホルムアルデヒド」貯蔵の届出	ホルマリン水溶液	危険物の貯蔵量の明確化	
		有規則	メタノール		
電波	電波法	—	高周波利用設備の設置の許可申請	設備の機能維持管理	適法
電気	電気事業法	電気関係報告規則	PCB設備の保有届出	届出	適法
製品安全	製品安全規格(UL規格)	アメリカ保険業者・安全試験所	指定製品に適用	製品の物性保証	対応済み

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令	基準及び関連手順	届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境 破壊防止	RoHS指令	EU加盟国施行令	使用禁止物質 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	REACH規則	(EU連合)	化学物質の登録～使用制限 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	JAMP AIS	(JAMPアーティクルマネジメント 推進協議会)	製品毎の「MSDS」等 (製品含有化学物質情報)	該当物質の含有の有無・含有 量(成形品当りの濃度)	対応済み
環境全般	—	エコアクション21ガイド ライン (2009年版)	—	エコアクション21ガイド ラインへの適合	認証登録

確認日:

2020年5月16日

〔違反・訴訟との有無〕

1. 環境関連法規等への違反はありません。
2. 関係機関からの違反等の指摘はありません。
3. 訴訟はありません。
4. 尚、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。

遵守状況	評価
法規制通り遵守した	○

⑨ 経営者による全体の評価と見直し

【環境方針・目標、活動計画、環境経営システム等の変更の必要性】

1. 環境方針の変更に関して

当社の環境に対する基本的な理念(考え方)であるが、国連が決議したSDGs(持続可能な開発目標)を昨年 盛り込んでいる。基本的理念は現状のまま変更する必要は無いものと判断する。

但し、方針に掲げただけとならぬよう、結果を求めるものである。

2. 環境目標の変更に関して

環境に関わる当社の「第三次 3ヶ年計画(2019～2021年度 環境目的・目標)」の初年度が終了した。当社の事業活動の一部では変化(可塑性食器の増産 等)が生じており、必要に応じて各取り組みに対する目標値の見直しを要する。

また、全社での結果となる「原単位」による各評価は、社内に明示し説明をした後に各部門の行動計画に移行すること。

各部門での行動計画には、その業務に沿った行動計画を盛り込むものとし、形式ばかりの取り組みとならないよう、『効果が得られる』取り組みを目指すこと。

結果、経営(本業)を運営して行く中で、環境への貢献を果たすことを目指す。

3. 環境経営システムの変更に関して

現時点に於いて、当社の環境経営システムは有効に機能しており、システムの変更の必要性はないと判断する。

但し、より効果の上がる活動が求められると共に、システムの不備が発見された場合は迅速に、かつ適切に是正を図り、環境経営システムの改善を実施すること。

【総括】

当社は環境経営システムが構築されており、活動の結果から一定の成果が認められる。しかし、「廃棄物排出量の抑制」を例として、管理項目によっては狙い通りに成果に至っていない管理項目もあり、取り組みの見直しの必要性がある。

具体的な数値を明確に示し、全社員でアイデアを出して取り組むことを期待する。各管理項目に於いてその実績の「見える化」を図り、真の原因や主たる要因を的確に把握して、全社活動をもって課題解決を図って行く。

改善が必要な点は迅速に、かつ適切な対策を講じ、成果に結び付けることが重要である。

環境経営システムは特別な活動ではなく、各部門の業務に於ける「生産性(効率)向上」をもって環境への貢献を果たすことを主体とし、無理・無駄のない取り組みを継続的に実施し、環境への貢献度や会社業績の向上に努めて行く。

2020年5月18日

信濃化学工業株式会社

代表取締役 小野 大輔

⑩ トピックス(1)

全社活動として、会社周辺の清掃等啓蒙活動の様子

2019年11月13日 他

【本社・第二工場 周辺】



長野県 SDGs登録／スマート・プラスチック

2019年7月26日 他

2019年7月26日にSDGs推進企業へ、また8月8日にはプラスチックスマート運動協力事業者として登録しました。



⑩ トピックス(2)

長野県知事表彰を受賞

2019年7月27日

当社の事業活動、並びに環境への取り組み内容が評価され、長野県知事表彰を受賞しました。
この受賞に驕ることなく、これからも持続可能な地球環境実現に向けて、当社は取り組んで参ります。



私たちは事業活動を通じて、大切な地球環境の維持・改善に努めます！